

# 目次

I. 調査概要	1
II. 総括	5
III. 概要	9
1. 四万十川の保全に対する取り組み	11
2. 四万十川との関わり	12
3. 環境を守る行動や意欲	14
4. 通信手段について	17
5. 居住意思と生活の満足度	18
IV. 調査対象者の属性	21
V. 単純集計結果	25
1. 四万十川の保全に対する取り組み	27
2. 四万十川との関わり	28
3. 環境を守る行動や意欲	31
4. 通信手段について	35
5. 居住意思と生活の満足度	36
VI. クロス集計結果	39
1. 四万十川の保全に対する取り組み	41
1-1. 「公益財団法人四万十川財団」の認知度	41
1-2. 「四万十川条例」の認知度	44
2. 四万十川との関わり	47
2-1. 川に出かけたこと	47
2-2. 出かけた頻度	49
2-3. 誰と出かけたか	52
2-4. 誰と何をしたか	55
2-5. 川に出かけなかった理由	68
3. 環境を守る行動や意欲	70
3-1. 環境を守る行動	70
3-2. 家庭での水切り袋などの設置	79
3-3. 家庭での生ゴミ堆肥化への取り組み	82
3-4. 環境に関する活動への参加の有無	85
3-5. 環境に関する活動に参加しない理由	87
3-6. 環境保全のための寄付へ協力したいと思うか	90
3-7. 環境保全のための寄付協力可能な上限額	92
4. 通信手段について	95
4-1. 携帯電話などの所有有無について	95
4-2. 携帯電話などでのネット利用状況	97

4-3. 自宅でのネット利用の可否 .....	100
<b>5. 居住意思と生活の満足度 .....</b>	<b>102</b>
5-1. 現在の居住地に住み続けたいと思うか .....	102
5-2. 現在の居住地への満足度 .....	104
5-3. 生活の満足度 .....	106

# I 調査概要



## 1. 調査目的

「高知県四万十川の保全及び流域の振興に関する基本条例」の目的の達成状況を把握し、進行管理を行うために必要な住民意識調査（条例第37条）を行うため、流域住民への調査を実施するものとする。

## 2. 調査項目

- (1) 四万十川の保全に対する取組み
- (2) 四万十川との関わり
- (3) 環境を守る行動や意欲
- (4) 通信手段について
- (5) 居住意思と満足度

## 3. 調査対象

- (1) 母集団 四万十川流域5市町村18歳以上の者
- (2) 標本数 1,000人
- (3) 抽出法 層化抽出法（市町村合併後の新市町村単位でなく旧市町村単位での抽出を行う）  
梶原町、津野町（旧東津野村）、四万十町（旧窪川町、旧大正町、旧十和村）、  
四万十市（旧中村市、旧西土佐村）、中土佐町（旧大野見村）

※分析にあたり上記の8地区を、流域に対応した以下の3居住地域に分類する。

上流域：梶原町、旧東津野村、旧大野見村

中流域：旧十和村、旧大正町、旧窪川町

下流域：旧中村市、旧西土佐村

## 4. 調査期間 平成29年10月5日～10月27日

## 5. 調査方法 郵送法

## 6. 有効回収数（率） 474人（47.4%）

## 7. 調査結果の見方

7-1. 本報告書内で使用している「N」は質問に対する回答者数で、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。なお、クロス集計については無回答者を除いているため、一部N値が変動している。

7-2. 結果数値（%）は「少数第二位を四捨五入」しているため、内訳の合計が一致しないことがある。



## II 総括





第4回目となる今回の調査では、対象とする年齢層に新たに10歳代を加えたほか、過去調査では60歳代以上として一括されていた項目を、60歳代、70歳代、80歳代以上に細分化したことで、年代による状況の違いの分析をさらに詳細に行えるよう配慮した。また、自由記述の回答枠を設けたことで、流域住民からの生の声を多く収録することが出来た（巻末資料参照）。

#### 公益財団法人四万十川財団および四万十川条例についての認知度（新設の設問）

公益財団法人四万十川財団及び四万十川条例とも流域住民の認知度は低く、6割以上の人が内容はもとより、その存在を知らないと答えた。なお、公益財団法人四万十川財団については、所在地である中流域では他の流域に比べて若干認知度が高かった。

#### 四万十川との関わり

この一年間に四万十川に出かけた人の割合は前回調査からわずかながら減少したが、それでも半数近い人が年に1回以上川に出かけている。誰と川に出かけたかについては、一人で川に出かけた人が減少した一方、家族や親類と出かけた人の割合が増加した。高齢化に伴い一人で川に出かけた人が減っている一方で、子育て世代を中心に、家族や親類同士で川遊び等を楽しむ人が増加している様子が見える。

#### 環境を守る行動や意欲

環境を守る取り組みについては、ゴミの分別化や資源ゴミのリサイクル化が浸透し、家庭での水切り袋の使用率も向上したが、コンポスト等による生ゴミの堆肥化に関しては、前回調査に比べ実施率の低下が見られた。

全国調査に比べて実施率が特に低い項目として、「不要品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している」があげられる。これは、地域においてバザーやフリーマーケットが開催される機会そのものが少なく、なじみが薄いことが影響している可能性がある。

また、環境を守るための寄付金に協力しても良いと思う人の割合は前回調査に比べ若干減少したものの、一人あたりの寄付しても良いと思う金額は前回調査よりも高額を回答した人が増加し、環境保全意識の高まりが実感される。

しかし、その一方で講演会や美化・清掃活動などの環境を守る活動に参加したことがある人は過半数を下回り、広報活動や流域住民の環境活動への参加促進のための取り組みについては課題も多く残されている。

#### 生活の満足度

生活の満足度に関して言えば、7割近くの人が現在の居住環境に満足しており、8割を超える人がそこに住み続けたいと思っている。前回調査よりも満足度が増した項目に、保育園、幼稚園から小・中学校、高校までの子育て、教育に関する項目と、地震、水害、火災などへの対応があげられる。

一方、市町村の行政に自分の意見が十分に採り入れられること、仕事や収入等の面、バスや電車等の公共交通機関の充実度に関しては、前回調査以降、依然満足度が低い状態が続いている。また、居住地域による満足度の違いが相対的に大きくなり、総じて上流域（檜原町、旧津野町、旧大野見村）では他の地域に対して多くの項目で満足度が高い傾向にあった。

携帯電話、インターネットの普及は前回調査以降の5年間でさらに加速し、特にスマートフォンの

普及に伴い携帯電話でインターネットを利用する人の割合は顕著に増加した。

### III 概要



# 1. 四万十川の保全に対する取り組み

◇問1 あなたは、「公益財団法人四万十川財団」という組織をご存じですか。

●全体：「知らない」66.6%、「名前を知っている」30.2%、「名前とどのようなことをしているかを知っている」3.3%。

●性別での比較

・男性は「知らない」64.1%、「名前を知っている」31.8%、「名前とどのようなことをしているかを知っている」4.1%。

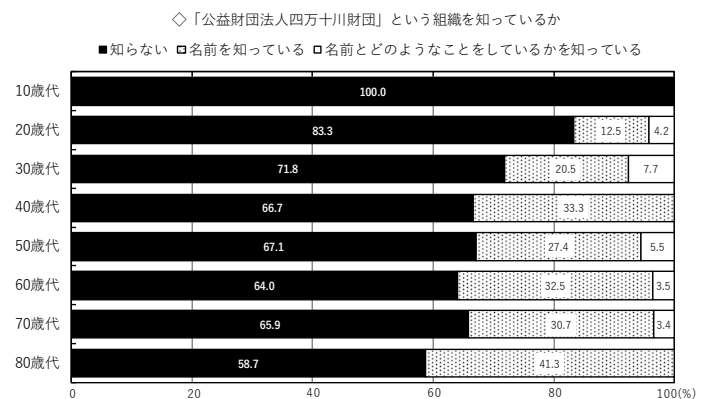
・女性は「知らない」69.2%、「名前を知っている」28.3%、「名前とどのようなことをしているかを知っている」2.5%。

●年齢での比較

・「知らない」と答えた人の割合は10歳代が100%と最も高く、概ね年齢が高くなるほど低下し、80歳代では58.7%と最も低かった。

・「名前を知っている」と答えた人の割合は80歳代が41.3%と最も高く、次いで40歳代の33.3%であった。

・「名前とどのようなことをしているかを知っている」と答えた人の割合は30歳代の7.7%が最も高く、総じて全年齢層において低い割合であった。



●居住地域（上流、中流、下流）での比較

・「知らない」と答えた人の割合は下流域が最も高く72.6%、次いで上流域の70.9%であり、中流域では52.3%と他の地域に比べて低い割合であった。

・「名前を知っている」と「名前とどのようなことをしているかを知っている」と答えた人の割合は中流域では47.7%と、他の地域に比べて高い割合を占めた。

◇問2 あなたは、「四万十川条例」をご存じですか

●全体：「知らない」63.3%、「名前を知っている」31.2%、「名前と内容を知っている」5.5%。

●性別での比較

・男性は「知らない」56.8%、「名前を知っている」36.0%、「名前と内容を知っている」7.2%。

・女性は「知らない」69.7%、「名前を知っている」26.2%、「名前と内容を知っている」4.1%。

●年齢での比較

・「知らない」と答えた人の割合は20歳代、30歳代、70歳代ではいずれも70%以上と高く、50歳代、60歳代では60%以下とやや低かった。

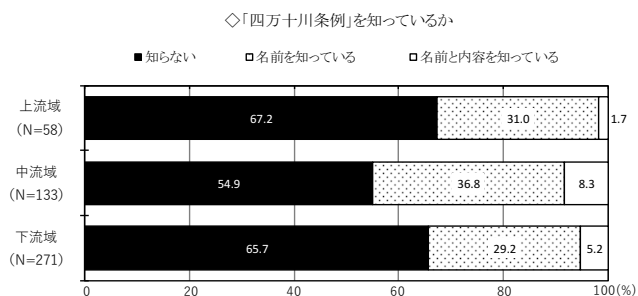
・「名前と内容を知っている」と答えた人の割合は10歳代が16.7%と最も高く、

次いで50歳代の15.1%であった。

●居住地（上流、中流、下流）での比較

・「知らない」と答えた人の割合は上流域が

67.2%で最も高く、次いで下流域の65.7%であり、中流域では54.9%と他の地域に比べてやや低い割合であった。



・「名前を知っている」と「名前と内容を知っている」と答えた人の割合は中流域が45.1%と、他の地域に比べて高い割合であった。

## 2. 四万十川との関わり

◇問3 あなたは、この1年間に仕事以外で川に出かけたことがありますか。

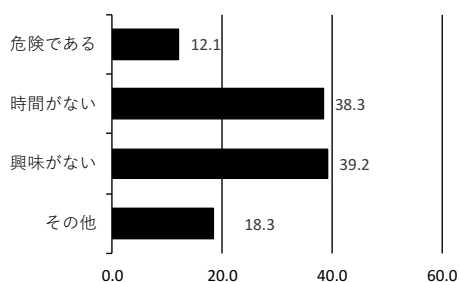
ある : 47.9%      ない : 52.1%



◇問4 「ない」と答えた理由



◇川に出かけなかった理由（複数回答）  
(N=240)



< ある と答えた人について >

◇問5 この1年間にどれくらい川に出かけましたか。

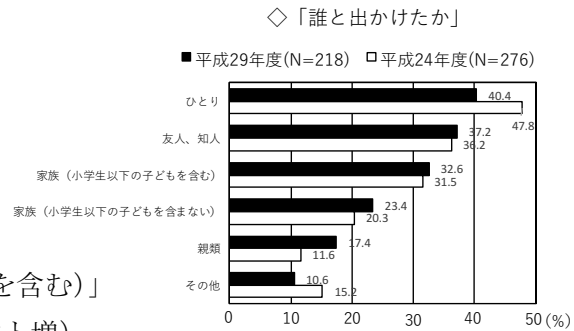
- 頻度：「毎日、ほぼ毎日」5.4%、「週1～2回くらい」10.0%、「月1～2回くらい」19.5%であり、34.9%が「月に1～2回くらい」以上は川に出かけている。しかし、「月1～2回くらい」以上川に出かける人の割合は前回より9.1ポイント減少。
- 性別での比較：「月に1～2回くらい」以上と答えた人の割合
  - ・男性 43.7% ・女性 24.5%
- 年齢での比較
  - ・「毎日、ほぼ毎日」と答えた人の割合は20歳代が16.7%（前回0%）と最も高い。
  - ・「年に1～2回くらい」しか川に出かけないと答えた人の割合は30歳代が70.8%と最も高い。
  - ・「月に1～2回くらい」以上川に出かけた人の割合は、全ての世代において減少。
- 居住地（上流、中流、下流）での比較
  - ・「月に1～2回くらい」以上と答えた人の割合はすべての地域で減少（前回に比べ5.4～14.2ポイント）。

◇問6 あなたは、この1年間に川で、誰と何をしましたか。

<誰と出かけたか>

●全体

- ・「ひとり」40.4%（前回から7.4ポイント減）。
- ・「友人、知人」37.2%（前回から1.0ポイント増）。
- ・「家族（小学生以下の子どもを含む）」32.6%（前回から1.1ポイント増）。



●性別での比較

- ・男性は「ひとり」が51.7%、女性は「家族（小学生以下の子どもを含む）」が37.5%と最も多かった。

●年齢での比較

- ・「家族（小学生以下の子どもを含む）」は30歳代が62.5%と最も高く、40歳代の44.1%がこれに次いだ。
- ・「友人・知人」は20歳代が75.0%と卓越して高く、50歳代が43.3%とこれに次いだ。
- ・「ひとり」は60歳代以上が52.8%と最も高く、20歳代が41.7%とこれに次いだ。

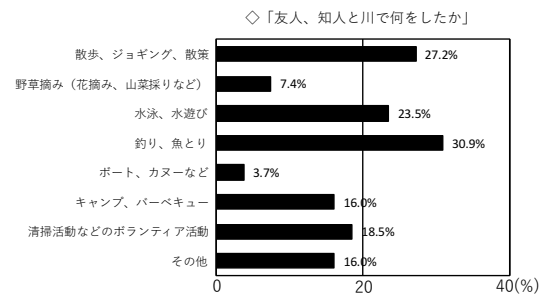
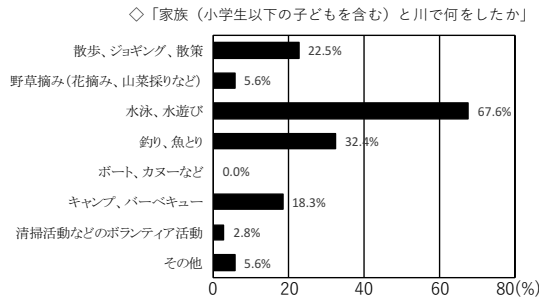
●居住地での比較

- ・上流域では「友人・知人」が43.5%と最も高く、「ひとり」が39.1%とこれに次いだ。
- ・中流域では「ひとり」が44.2%、「友人・知人」が42.3%と、ともに高い割合を占めた。
- ・下流域では「ひとり」が40.9%と最も高く、「家族（小学生以下の子どもを含む）」、「友人・知人」がともに35.6%とこれに次いだ。

<川で何をしたか>

●全体

- ・「家族（小学生以下含む）」で最も多いのは「水泳、水遊び」で67.6%。
- ・「家族（小学生以下含まない）」は「散歩、ジョギング、散策」で33.3%。
- ・「親類」は「水泳、水遊び」で44.7%。
- ・「友人、知人」は「釣り、魚とり」で30.9%。
- ・「ひとり」は「散歩、ジョギング、散策」で50.0%。



- 性別での比較 「誰と」について最も多い項目およびその人と「何をしたか」  
男性：「ひとり」→「散歩、ジョギング、散策」「釣り、魚とり」46.7%

女性：「家族（小学生以下の子どもを含む）」→「水泳、水遊び」72.2%

- 年齢での比較 「誰と」について最も多い項目およびその人と「何をしたか」  
10歳代：「友人、知人」→「水泳、水遊び」100%  
「ひとり」→「散歩、ジョギング、散策」100%

20歳代：「友人、知人」→「水泳、水遊び」44.4%

30歳代：「家族（小学生以下の子どもを含む）」→「水泳、水遊び」86.7%

40歳代：「家族（小学生以下の子どもを含む）」→「水泳、水遊び」73.3%

50歳代：「家族（小学生以下の子どもを含む）」→「釣り、魚とり」50.0%

60歳代：「ひとり」→「釣り、魚とり」が51.5%

70歳代：「ひとり」→「散歩、ジョギング、散策」61.1%

80歳代：「ひとり」→「散歩、ジョギング、散策」「釣り、魚とり」50.0%

- 居住地域での比較 「誰と」について最も多い項目およびその人と「何をしたか」

上流域：「友人、知人」→「釣り、魚とり」40.0%

中流域：「友人、知人」→「釣り、魚とり」31.8%

下流域：「家族（小学生以下の子どもを含む）」→「水泳、水遊び」63.8%

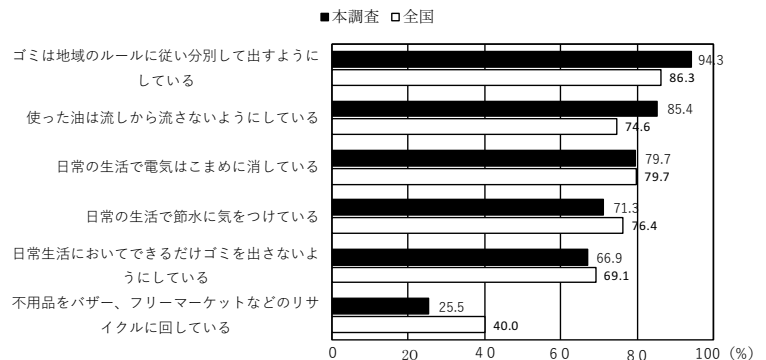
### 3. 環境を守る行動や意欲

<環境を守るために日頃どのような行動を行っているか>

- 全国調査との比較：

- ・比較した6項目中3項目において調査地域の『実施率』が全国調査の『実施率』を下回った。
- ・実施率が全国調査よりも上回っている項目：「ゴミは地域のルールに従い分別して出すようにしている」

◇「環境を守るために日頃どのようなことをおこなっているか」全国調査(平成28年度)との比較(「いつも行っている」+「だいたい行っている」)



別して出すようにしている」94.3%（全国調査より8.0ポイント多い）、「使



った油は流しから流さないようにしている」85.4%（全国調査より10.8ポイント多い）。

- ・実施率が全国よりも下回っている項目：「日常の生活で節水に気をつけている」71.3%（全国調査より5.1ポイント低い）、「日常生活においてできるだけゴミを出さないようにしている」66.9%（全国調査より2.2ポイント低い）、「不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している」25.2%（全国調査より14.5ポイント低い）。

#### ●性別での比較

- ・13項目中12項目において、男性より女性のほうが実施率が高い。

男性：

<実施率が高い項目>

- ・「ゴミは地域のルールに従い分別して出すようにしている」92.7%
- ・「ビン、カン、ペットボトルは分別してリサイクルに回している」86.4%
- ・「使った油は流しから流さないようにしている」79.5%

<実施率が低い項目>

- ・「不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している」24.1%
- ・「米のとき汁やみそ汁などは流しから流さないようにしている」28.3%
- ・「風呂の残り湯は、せんたく、そうじ、庭の水やりなどに再利用している」34.5%

女性：

<実施率が高い項目>

- ・「ゴミは地域のルールに従い分別して出すようにしている」95.8%
- ・「使った油は流しから流さないようにしている」91.0%
- ・「ビン、カン、ペットボトルは分別してリサイクルに回している」90.9%

<実施率が低い項目>

- ・「米のとき汁やみそ汁などは流しから流さないようにしている」25.6%
- ・「不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している」27.1%
- ・「風呂の残り湯は、せんたく、そうじ、庭の水やりなどに再利用している」38.2%

#### ●年齢での比較

<全年齢層において実施率が高い項目>

- ・「ゴミは地域のルールに従い分別して出すようにしている」（平均93.6%）
- ・「ビン、カン、ペットボトルは分別してリサイクルに回している」（平均85.6%）
- ・「使った油は流しから流さないようにしている」（平均79.1%）

<全年齢層において実施率が低い項目>

- ・「米のとき汁やみそ汁などは流しから流さないようにしている」（平均22.9%）
- ・「不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している」（平均23.8%）
- ・「風呂の残り湯は、せんたく、そうじ、庭の水やりなどに再利用している」（平均30.2%）

<特定の年齢層において実施率が低い項目>

- ・「風呂の残り湯は、せんたく、そうじ、庭の水やりなどに再利用している」と「不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している」10歳代で0%
- ・「米のとぎ汁やみそ汁などは流しから流さないようにしている」30歳代で0%

●居住地域での比較

- ・すべての居住地域において「ゴミは地域のルールに従い分別して出すようにしている」が最も実施率の高い項目となっている。居住地域による大きな違いは認められなかった。

◇問8 あなたのご家庭では、日頃、流しの排水口や三角コーナーで水切り袋などを使っていますか。

- ・「いつも使っている」67.0%（前回調査より2.5ポイント増加）
- ・「全く使っていない」12.4%（前回から1.9ポイント減少）

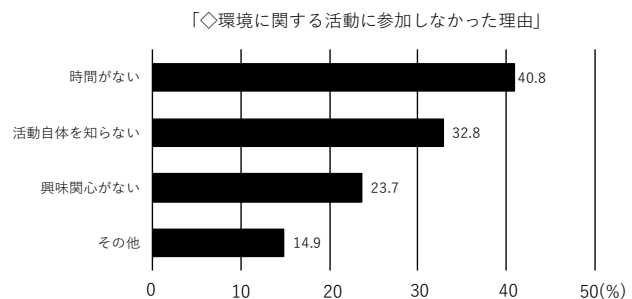
◇問9 あなたのご家庭では、日頃、家庭から出る生ゴミのたい肥化に取り組んでいますか。

- ・「全くしていない」51.9%（前回から3.2ポイント増加）
- ・「いつもしている」20.9%（前回から2.5ポイント減少）

◇問10 あなたは、環境に関する活動に参加したことがありますか。

ある：42.3%      ない：57.7%

◇問11 「ない」と答えた理由



◇問12 四万十川やその流域の環境を保全するために、寄付を募るとすれば協力してもよいと思いますか。

- 思う：77.3%（前回から4.3ポイント減少）
- 思わない：22.7%（前回から4.3ポイント増加）

◇問13 1か月あたり協力しても良いと思う金額は。

●全体

- ・「300円くらいまで」以上の金額を回答した人の割合は前回調査の61.4%から64.2%へと2.8ポイント増加。
- ・「～1,000円くらいまで」以上の金額を答えた人の割合は23.0%（前回から4.4ポイント増加）

●性別での比較

- ・男性では「～100円くらいまで」が最も多く31.7%、次いで「～1,000円くらいまで」が28.3%。
- ・女性では「～500円くらいまで」が最も多く28.3%、次いで「～100円くらいまで」が27.3%。

●年齢での比較

- ・「～300円くらいまで」以上の金額を回答した人の割合が最も高いのは30歳代の85.7%で、次いで50歳代の71.1%。
- ・前回調査と比較すると、特に30歳代の「～1,000円くらいまで」と答えた人の割合が大幅に増加。(前回から29.2ポイント増加)。

●居住地での比較

- ・今回調査では居住地ごとの金額に明瞭な差は認められなかった。
- ・前回調査と比べ、中流域、下流域は大きな変化はなかったが、上流域のみ「～300円くらいまで」の金額を回答した人の割合が低下し(前回から6.8ポイント減少)、一方で「～500円くらいまで」以上の金額を回答した人の割合は増加(前回から6.8ポイント増加)。

## 4. 通信手段について

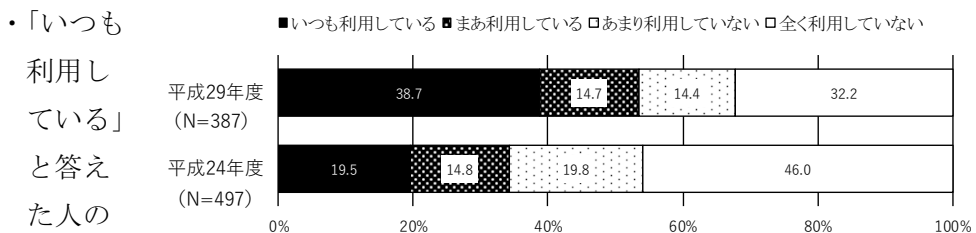
◇問14 あなたは、携帯電話やスマートフォンを持っていますか。

持っている : 83.6% (前回から5.4ポイント増加)  
持っていない : 16.4% (前回から5.4ポイント減少)

◇問15 日頃、携帯電話やスマートフォンでインターネットを利用していますか。

●全体

◇「携帯電話でのネット利用状況」



割合は38.7%、「まあ利用している」と答えた人の割合は14.7%で、これらを合わせた「利用率」は53.4%となっており、前回調査の34.3%から19.1ポイント増加。特に「いつも利用している」と答えた人の割合が前回の19.5%から38.7%へと大幅に増加。

●性別での比較

- ・前回調査と同様に男性の方が「持っている」と答えた人の割合が高い。男性は前回の83.2%から88.1%へ4.9ポイント、女性は前回の74.0%から80.4%へ6.4ポイント増加。

●年齢での比較

- ・20歳～40歳代において「持っている」と答えた人の割合が100%となってい

る。また、すべての年代において「持っている」と答えた人の割合が前回よりも増加。

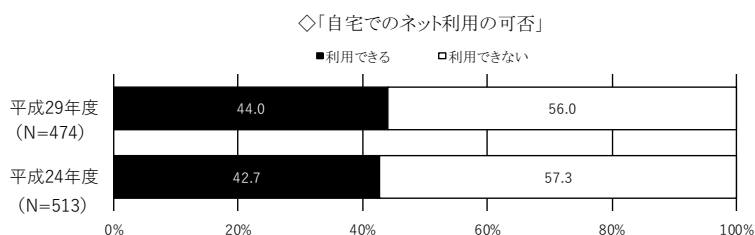
●居住地での比較

- ・「持っている」と答えた人の割合は下流域が 86.8%と最も高い。前回と比較すると、上流域のみ「持っている」と答えた人の割合が 7.1 ポイント減少。

◇問 16 あなたのお宅では、パソコンなどでインターネットが利用できますか。

●全体

- ・「利用できる」と答えた人の割合は 44.0%で、前回調査の 42.7%から 1.3 ポイント増加している。



●性別での比較

- ・男女で割合に大きな差はない。前回と比較すると男性はわずかに減少していたものの、女性は 4.3 ポイント増加。

●年齢での比較

- ・「利用できる」と答えた人の割合が最も多かったのは 30 歳代の 84.2%で、前回の 62.0%から大幅に増加。また、40 歳代においても前回の 68.6%から 76.9%と 8.3 ポイント増加。

●居住地での比較

- ・「利用できる」と答えた人の割合は前回同様中流域が 46.1%と最も高い。中流域では前回と全く変化がないが、その他の地域においてはどちらも「利用できる」と答えた人の割合が増加。

## 5. 居住意思と生活の満足度

◇問 17 今お住まいのこの地域にずっと住みたいと思いますか。

そう思っている : 86.8% (前回から 1.4 ポイント増加)

そう思っていない : 13.2% (前回から 1.4 ポイント減少)

●性別での比較

- ・前回調査と比べ、男性は 86.6%から 88.7%と 2.1 ポイント、女性は 84.3%から 84.8%と 0.5 ポイント増加。

●年齢での比較

- ・30 歳～60 歳代以上は「そう思っている」と答えた人の割合が 8 割以上と高くなっている。特に 30 歳代においては、「そう思っている」と答えた人の割合が 89.7%と前回から 23.7 ポイントの大幅増。

・20歳代では「そう思っている」と答えた人の割合は54.2%と全年代中最も低い。

●居住地での比較

・「そう思っている」と答えた人の割合が最も高いのは下流域で88.9%。上流域のみ前回と比較して「そう思っている」人の割合が4.5ポイント減少。

◇問18 今お住まいの地域を総合的にみて、どの程度満足していますか。

●全体

・「満足している」と答えた人の割合は25.4%、「まあ満足している」と答えた人の割合は43.2%で、この2項目を合わせた『満足率』は68.6%となり、前回調査の67.5%から1.1ポイント増加。

●性別での比較

・男性と女性の割合に大差はない。また、「満足している」と答えた人の割合は、男女ともに前回よりもわずかに増加。

●年齢での比較

・20歳代を除くすべての年代で満足率が増加。20歳代では「満足している」と答えた人の割合は前回に比べ10.8ポイント増加したが、「まあ満足している」と答えた人の割合が21.7ポイント低下し、その結果満足率は54.1%と前回より10.9ポイント低下。

●居住地での比較

・満足率は全流域で約7割と高くなっている。また『満足率』については中流域のみ前回より減少しているものの、「満足している」と答えた人の割合はすべての地域で増加している。

◇問19 今お住まいの地域に関して、どの程度満たされていますか。

<満足度が高い項目>

- ・「まわりに親しめる自然があること」74.3%
- ・「日々の買い物など日常生活に不便がないこと」42.9%
- ・「適切な診察や治療が受けられること」41.0%

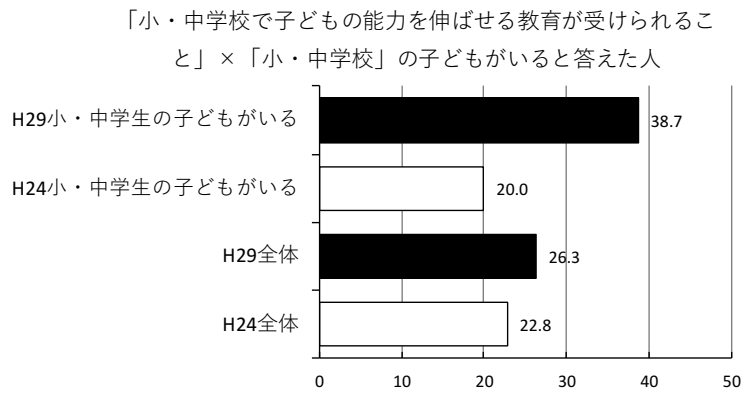
<満足度が低い項目>

- ・「収入が年々確実に増えること」5.5%
- ・「能力があつて努力すれば誰もがふさわしい地位や収入が得られること」8.0%
- ・「市や町の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること」10.1%

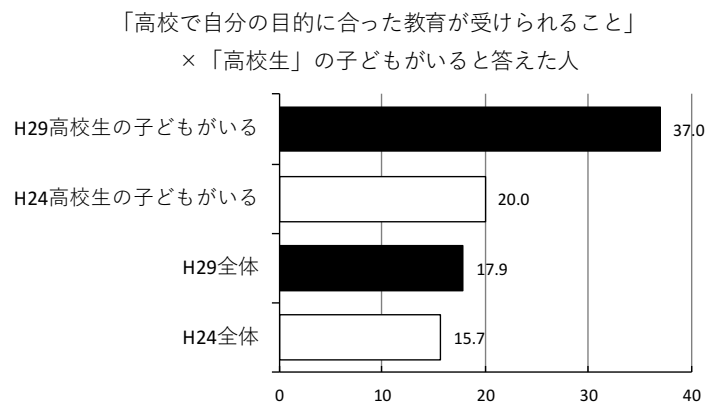
●前回との比較

- ・「地震・水害・火災などへの対応がしっかりしていること」と答えた人の割合は前回より9.0ポイント増加。
- ・「小・中学校で子どもの能力を伸ばせる教育が受けられること」と答えた人のう

ち、「小・中学校」の子どもがいると答えた人の割合は38.7%と前回より18.7ポイント増加。



- ・「高校で自分の目的に合った教育が受けられること」と答えた人のうち、「高校生」の子どもがいると答えた人の割合は37.0%と前回より17.0ポイント増加。

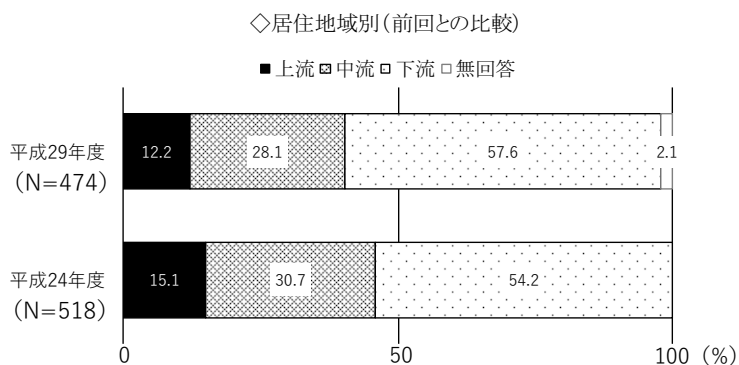
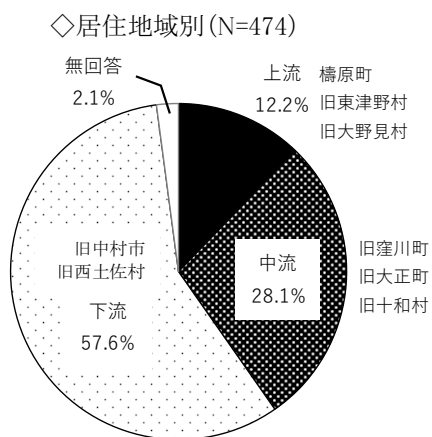
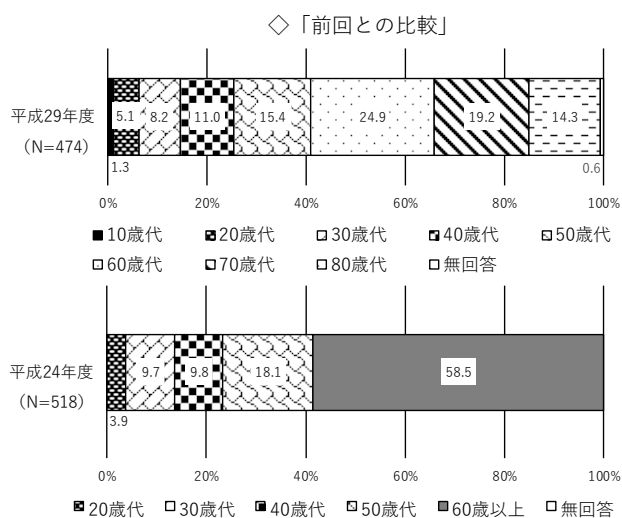
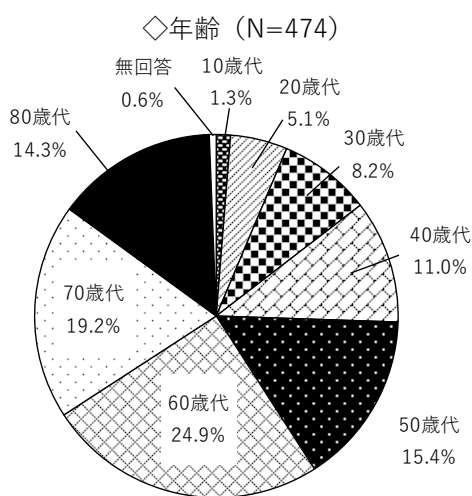
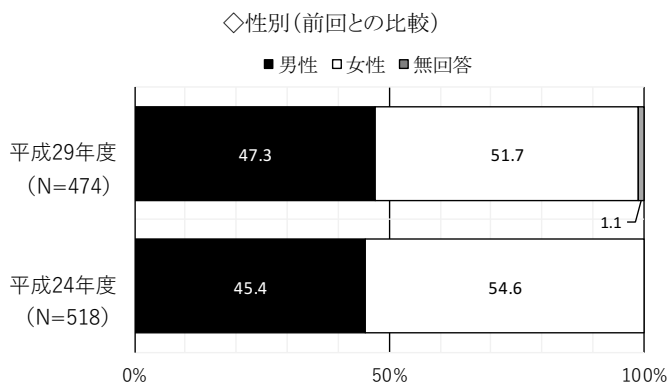
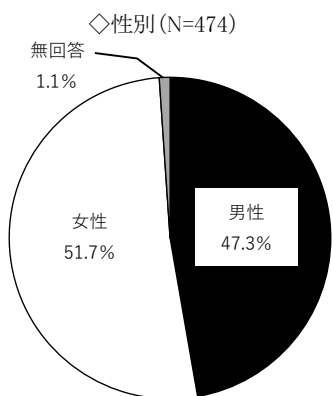


## IV 調査対象者の属性

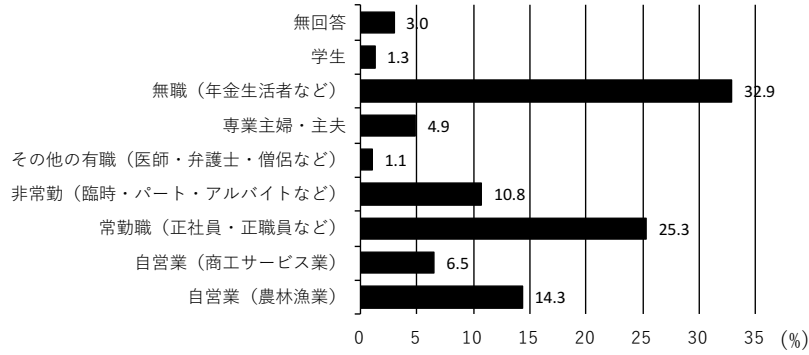




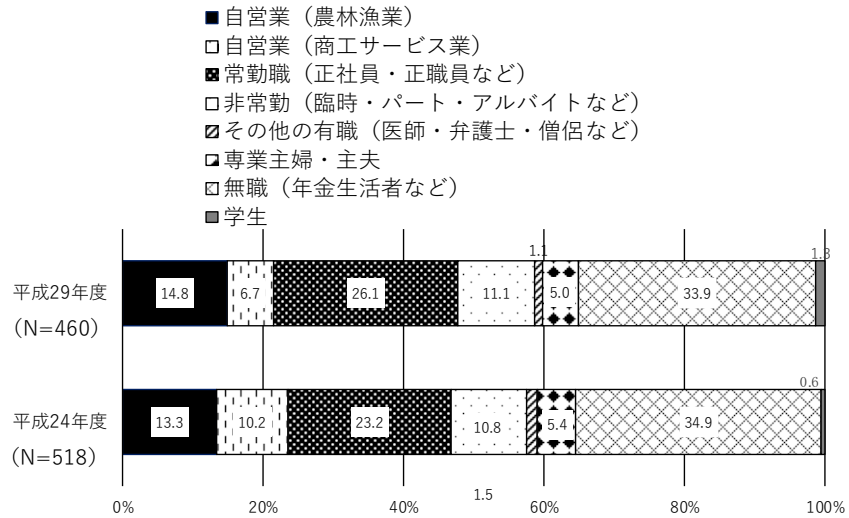
基本的属性は以下のとおり。



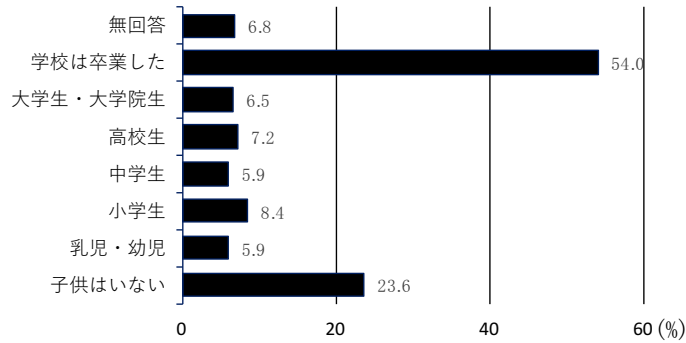
◇職業別(N=474)



◇職業別 (前回との比較)



◇子供の成長段階(N=474)



◇子供の成長段階 (前回との比較)

